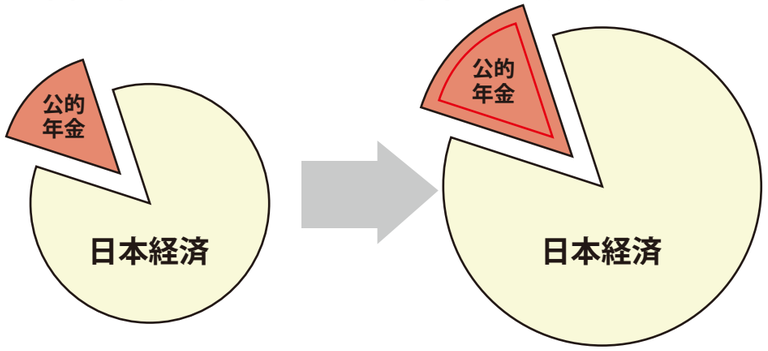
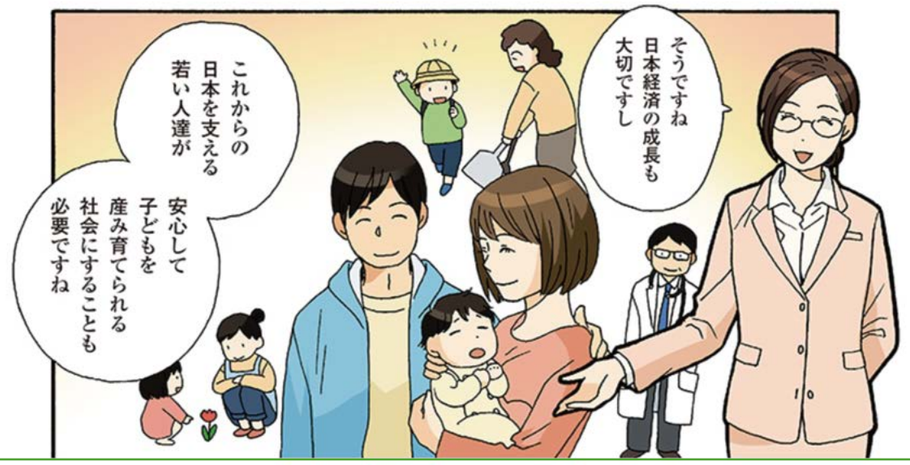
公的年金をよりよくしていくために

公的年金は現役世代が高齢者を支える仕組みですので、支え手がいて日本経済が続いていく限り公的年金制度がなくなることはありません。
また、公的年金の給付は、実質的な価値を保障するため経済状況に連動しています。つまり、日本経済の規模自体が拡大すれば、年金給付に使える金額も大きくなるのです。

日本経済（パイ）が大きくなれば、公的年金（ピース）の額も大きくなる



みんなで、子どもを産み育てやすい社会にしながら、同時に日本経済をより良くしていくことが大切です。そのためにも、皆さんが安心して生活できる仕組みである公的年金制度を長期にわたって持続していくことが重要になります。



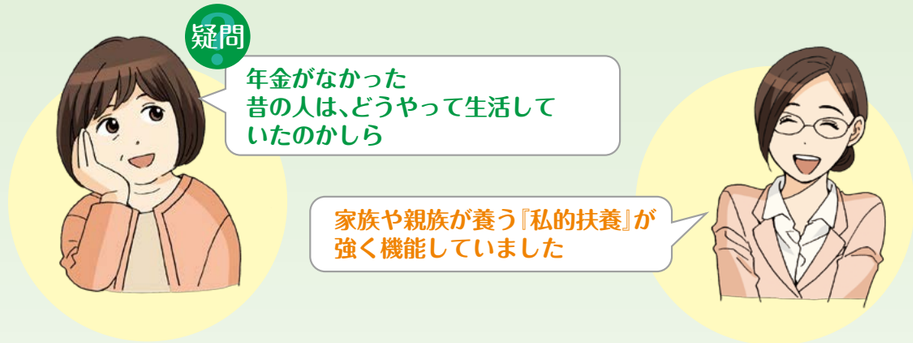
いっしょに検証！公的年金
～財政検証結果から読み解く年金の将来～

詳しくは、マンガで分かりやすく解説したこちらのホームページをご覧ください。
http://www.mhlw.go.jp/nenkinkenshou/

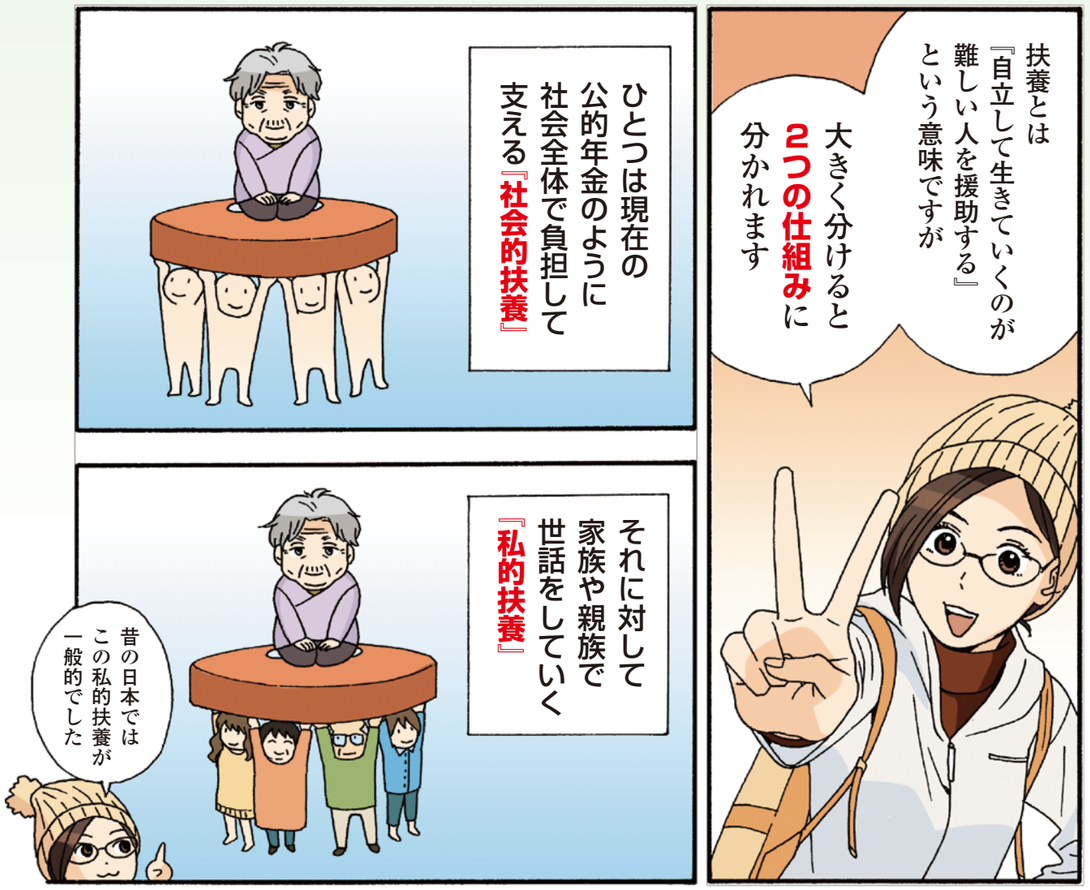
厚生労働省
Ministry of Health, Labour and Welfare

作成：平成28年

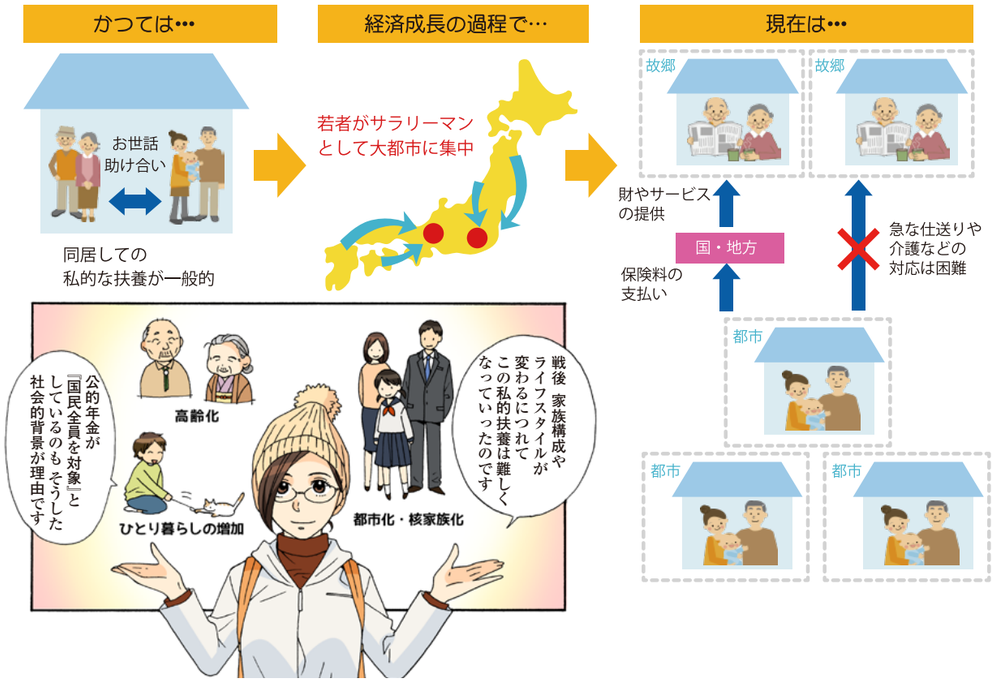
公的年金による社会全体の支え合い



公的年金制度が今ほど普及していなかったころは、
家族や親族で高齢者を世話していく「私的扶養」が一般的でした。



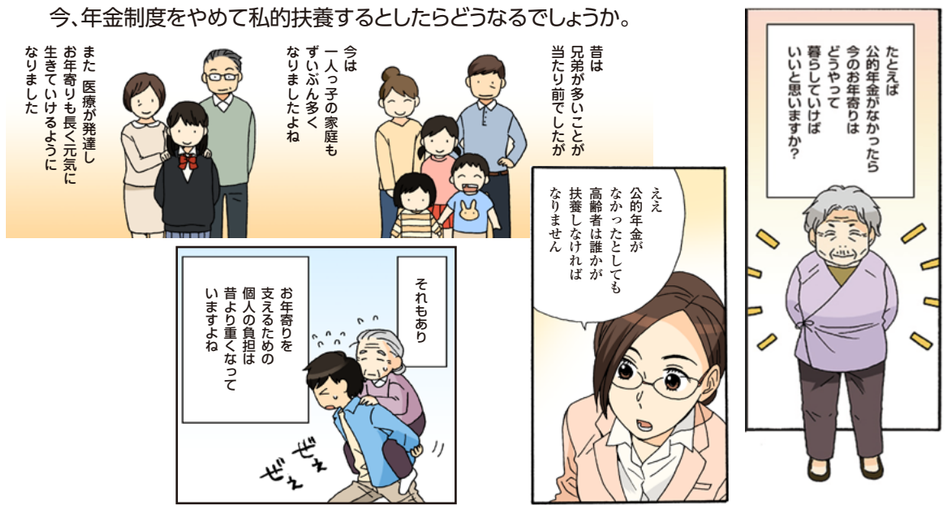
私的扶養から社会的扶養へ



かつては公的年金を多くの人が受給していたわけではなく、受給していたとしても額が少ないこともありました。そのため、多くの人が自分の収入から親を扶養していました**(私的扶養)**。
現在では公的年金制度が充実し、生活の支えとなることで、個人で親を扶養する負担は昔と比べれば軽くなりました。自分の収入で親を養っていたことが、公的年金に移行していったのです**(社会的扶養)**。

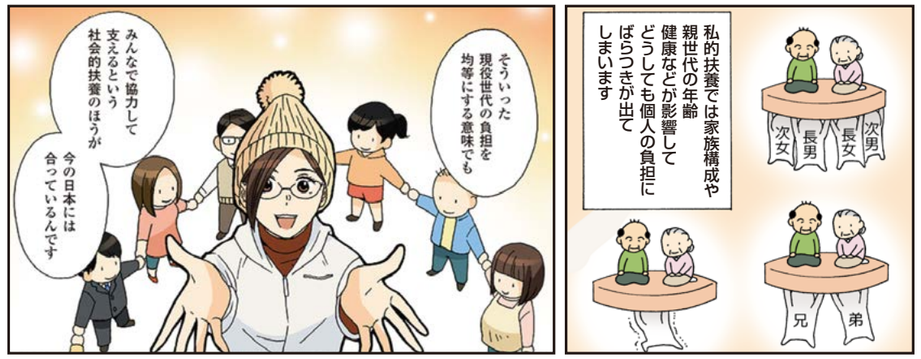
社会的扶養の意義

今、年金制度をやめて私的扶養するとしたらどうなるでしょうか。



公的年金による
社会全体の支え合い

昔は兄弟が多くいましたが、今は一人っ子も増えました。また、お年寄りも元気に長生きになりました。私的扶養では、家族構成や親の年齢・健康などが影響して、個人の負担にばらつきが出てしまいます。現役世代の負担を均等にする意味でもみんなで協力して支える必要があります。



また、公的年金が普及している現在においては、公的年金の社会的扶養の役割を忘れがちですが、現役世代は親に対する経済的な心配が減り、高齢者は自分の子どもに負担をかけないで経済的に自立した生活を送りやすくなります。

現役世代も実感できる公的年金のメリット

公的年金は、「老齢年金」という長生きに対する保障だけではなく、若くてもけがや病気などで障害が残った場合に支給される「障害年金」、一家の大黒柱が死亡した場合に支給される「遺族年金」があります。予測が難しいけがや病気などに対してみんなで支えあう保険の仕組みです。公的年金の保険料を納めることで、生涯にわたって安心を得ることができます。

たとえば、皆さんは国民健康保険、協会けんぽや組合健保の保険料を払っていると思います。ですが、こうした公的医療保険は、けがをしたり、病気になったりしなければ給付は受けられません。これを損だと思いますか?

いつ病気になるかはわからないし、万が一のことを考えると安心できるから、病気にならなかったからといって損だとは思わないよな

年金というと払った保険料と給付される年金額の大小といった経済的な損得に目が行きやすいですが、公的年金が持つ「安心」のメリットにもっと目を向けてもいいのではないでしょうか。